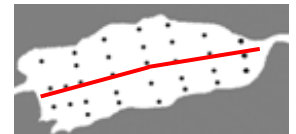


2023年8月 宍道湖 塩分・溶存酸素

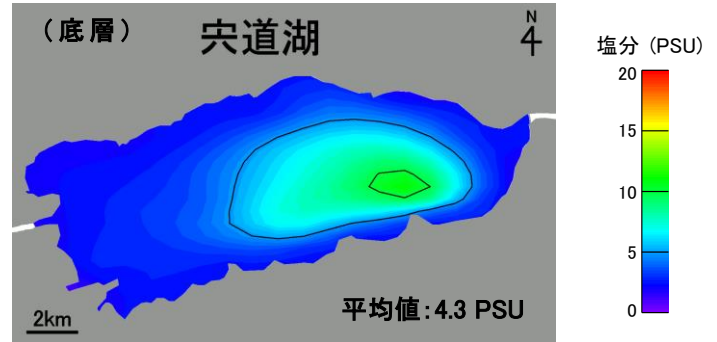
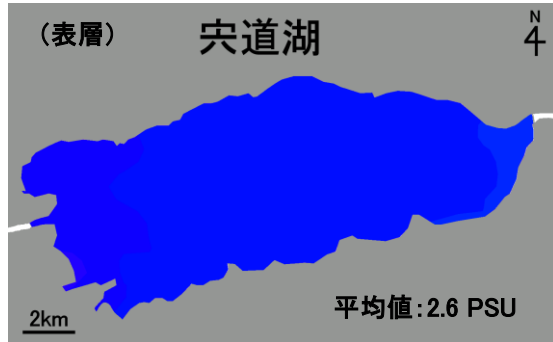
水域	調査日	天候	海況	水温 (表層平均)
宍道湖	2023年8月2日	晴れ	東 1m/秒 → 西 3m/秒	33.1℃

● 調査地点 — 鉛直ライン



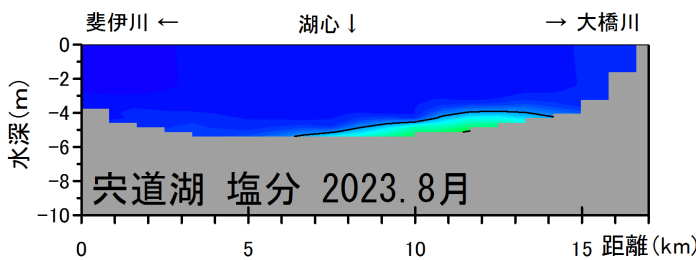
調査定点図

● 塩分 水平分布 (表層:左、底層:右)



※塩分濃度のスケールは 2020 年 6 月より変更となっています。過去と比較する際はご注意ください。

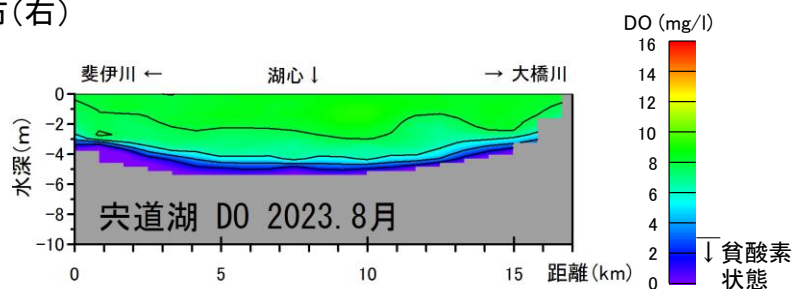
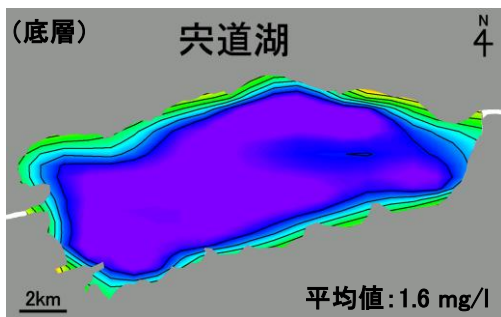
● 塩分 鉛直分布



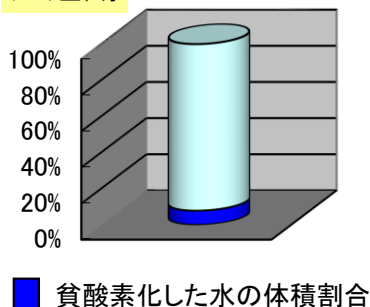
塩分の値は、表層では宍道湖全域でほとんど差はみられませんでした。底層では、玉湯の沖合を中心に東部で高い値を示しました。平年値と比較すると、表層と底層はともに平年より低くなりました。

また、表層水温は平年値を 3℃ 近く上回り (R5 年度水質状況を参照)、過去 21 年間の本調査における最高値となりました。

● 溶存酸素 水平分布(底層:左)と鉛直分布(右)



宍道湖



溶存酸素濃度は、宍道湖全域において、湖底から約 1m の層で低い値を示しました。3mg/l 未満の貧酸素水の体積割合は 7.8% で、湖底面積の 73.0% が貧酸素化していました。

貧酸素水体積割合は、平年値を大きく上回り (R5 年度水質状況を参照)、最近 10 年での最高値でした。これは、連日の猛暑による水温の上昇と、風の穏やかな天候が 10 日間近く続いた (気象庁 HP) ことにより、湖底の成層化が助長されたためだと推測されます。

● R5 年度水質状況

